

資料3

研究課題	3 ヘア・トラップ法によるツキノワグマの生息動向と個体数推定の開発(24-28)
研究目的・背景	<p>近年、全国的な傾向として2～3年おきにクマが人里へ大量出没し、その多くが捕殺され、個体数の急減が危惧されていることから、各年の精度の高いトレンド追跡が喫緊の課題となっている。そこで本研究ではヘア・トラップ調査のモデル地域を設定し、個体群のトレンドを把握することを目的とした。近年、捕獲数を用いた階層ベイズ法による個体数推定方法などの新たな統計シミュレーションモデルが構築されている。継続したヘア・トラップ調査の結果を組み入れる統計シミュレーションモデルを試行し、岩手版の生息動向と個体数推定法を確立することを目的とした。</p>
研究内容	<p>(1) モデル地域の選定ならびにヘア・トラップ調査の実施(平成24～28年度) (2) シミュレーションモデルへの応用(平成25～28年度) (3) モニタリング調査法の確立(平成26～28年度)</p> <p>シミュレーションモデルの基礎的な検討調査地として岩手大学御明神演習林にトラップを設置する。また県事業において実施しているクマ生息数調査事業の結果もモデルに組み込み生息動態の把握に努める。</p>
評価結果	<p>○総合評価 A(5人)・B(0人)・C(1人)・D(0人) ○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツキノワグマの推定個体数動態のシミュレーションはツキノワグマと人間の共存を検討する上で重要であり、結果も評価できるものである。他の地域と異なり岩手県のツキノワグマの食性についても検討する必要があると思われ、今後も研究の推進を求める。 ・限られた予算の中で、将来を予測するものであり評価できる。 ・ツキノワグマの保護、管理に重要なテーマであり手法としても優れており高く評価する。 ・長期的なツキノワグマの個体数推計は重要であり、モデルの信頼性の向上に努めてもらいたい。 ・クマの個体数把握とその適正な管理は、全国的にも喫緊の課題となっている。ヘア・トラップ調査による個体数の推定も3年目に入るようだが、シミュレーションモデルによる個体数推定も設定パラメータが多いためか所期の成果が得られていないように思われる。堅果数調査など地道にデータを積み上げ、他地区と情報交換することも有用ではないか。 ・研究目標の設定、解析手法の採用、アウトプットの想定のいずれも優れている。行政施策への反映もあり、応用的にも優れているが、生物学的非常に良い研究だと評価する。さらに原著論文の発表を期待する。
センターの対応方針	<p>①研究計画のとおり実施 2一部見直しの上実施 3計画再考 4中止</p> <p>ツキノワグマは絶滅の恐れがある野生動物として位置づけられているが、農林業被害や人身事故が頻発し、大きな社会問題となっており、その保護管理は社会的な要請が大きい。</p> <p>今後のツキノワグマ等野生生物の保護管理計画の策定に資するため、国内外の研究者とも連携しながら、引き続き野外調査と数理モデル構築の二面において、より高い精度を求め、研究を進めていく。</p>